

看護必要度

透析看護必要度もあるの？

H31年 3月16日（土）

大野内科医院 透析室

看護必要度って？

病院の入院基本料は、看護職員の人員配置（7対1、10対1など）によって決められている。

しかし、本当に人員配置の基準にふさわしい看護サービスが、入院患者に提供されているのかを評価する基準がなかった。看護必要度という看護の業務量を測定する尺度が採用されるようになり、2008年位より7対1や10対1等の入院基本料を取っている病院で導入されるようになった。最近では導入し測定することが義務付けになってる。（看護必要度＝H26年から重症度、医療・看護必要度に名称が変更）

→患者によって看護量が異なるのに、定額の入院基本料が算定されてしまう。

→患者に対する看護量が多く、質の高いサービスを提供しても看護師が少ない配置のため算定量が低い

人員配置は看護サービスの大切な評価の一つではあるが、評価基準のすべてではない

☆導入の主な目的

- ・入院患者にとって必要な看護の業務量の程度を評価する（体制に見合った看護が行われているか）
- ・看護業務量を知り、病棟の適切な人員配置

透析にも看護必要度ってあるの？

私の疑問

透析療法は3～6時間治療に時間を要する。患者は高齢化し、導入患者も高齢の方が多く、合併症を併発していることが多い。患者が透析治療を行っている間に、スタッフはケアや処置、患者指導など看護業務を提供している。また透析機器を監視し、患者の血圧や状態の観察も常に行っている。更に患者が安全に帰宅できるように配慮し、家族や介護タクシー会社などと連携を取るなどの対応を行っている。そんな状況にも関わらず、透析看護があまり評価されていないのではないかと長年感じていた。

透析看護の量を図る尺度はないのか？

透析看護必要度分類表があった！

他院では、看護必要語を独自に作成し、ベットコントロールに生かそうと検討したところもある

透析看護必要度分類表

観察・処置の 程度 自立の程度	I	II	III	IV
	1時間ごとの観察だけで特別な観察を必要にしない	I以外の特別な観察が不定期に必要	特別な観察を頻回に必要	特別な観察が絶えず必要
3	I-3 (3点)	II-3 (4点)	III-3 (5点)	IV-3 (6点)
全面介助が必要	例) 高齢な患者・視力障害 社会的入院患者	例) 高齢な患者・視力障害 社会的入院患者・導入患者	例) 心不全などの合併症 全麻下での術直後の患者	例) 出張・病棟での透析
2	I-2 (2点)	II-2 (3点)	III-2 (4点)	IV-2 (5点)
部分介助が必要	例) 主に外来患者 昼間透析患者	例) 高齢な患者・視力障害 昼間透析患者	例) 導入期の高齢患者 重篤な心疾患の合併	例) 心不全などの合併症 全麻下での術直後の患者
1	I-1 (1点)	II-1 (2点)	III-1 (3点)	IV-1 (4点)
自立している	例) 主に外来患者 夜間外来透析患者	例) 主に外来患者 昼間外来透析患者	例) 高齢な患者・視力障害 導入期の患者	例) 高齢な患者・術後の患者 重篤な心疾患の合併

2月26日看護必要度

観察・処置の程度	I	II	III	IV
自立の程度	1時間ごとの観察だけで特別な観察を必要としない	I以外の特別な観察が不定期に必要	特別は観察を頻回に必要	特別な観察が絶えず必要
3 全介助が必要	I-3 無 0点	II-3 2名 8点	III-3 1名 5点	IV-3 無 0点
2 部分介助が必要	I-2 3名 6点	II-2 1名 3点	III-2 無 0点	IV-2 1名 5点
1 自立している	I-1 16名 16点	II-1 2名 4点	III-1 2名 8点	IV-1 無 0点

看護必要度 55点
(患者28名)

スタッフ人数(返血時)
9名(有資格者)

患者1人に対する看護必要度(1日)
1.96点 最高5点

1スタッフ当たりの看護提供度は
6.1点

● 1看護師のあたりの看護提供度
9.2点(リーダー含む)

何らかの介護を必要とする患者8名
患者割合3.5% (看護補助2名)

透析看護必要度分類表を使用して

- ・透析看護必要度分類表については、色々な施設で使用し看護必要度を調査している。または患者のベット配置やスタッフの人員配置に生かせないか模索中である。

→数字として看護度を表してはないが、当院は人員配置について実際に行っている。

- ・看護サービスを数値化できる指標の一つと考えるが、患者の自立の程度と透析中の観察の程度を評価しているが、患者指導や家族への連絡などの労力が組み込まれてはいない。

最後までご清聴いただきありがとうございます
ございました。

